

図書館だより

2025 年 7 月 390 号
釧路市音別町ふれあい図書館
編集者/坂本恵一 ☎6-3435



↑本の検索・予約はこちらから↑



↑ふれあい図書館 HP ↑

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12 ふれあい DAY
13	14	15 出前 de おはなし会	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26 ふれあい DAY
27	28	29	30	31		

予約・リクエスト本、承ります。
読みたい本等がありましたらご相談ください。
探します。

【開館時間】午前 10 時～午後 6 時 【休館日】月曜日、第 3 土・日、祝祭日

今月のふれあい DAY

日時: 7月12日(土) 11:00～11:30

場所: 児童閲覧室(図書館 1 階)にて
「ぬりえで遊ぼう」

日時: 7月26日(土) 11:00～11:30

場所: 児童閲覧室(図書館1階)にて
「お話し会(季節に合わせたお話)」

今月は【夏休み】のタイトルがつく本を集めてみました!!

夏です。小・中学校はいよいよ今月から夏休みが始まります。ズバリ「夏休み」のタイトルの本を集めてみました。これから暑くなります。暑い日は涼しい部屋で水分補給をしながら読書を楽しむことにしませんか。



●7月11日は「ラーメンの日」

日付の7と11の、7をレンゲに11を箸に見立てたことと、ラーメンを日本で最初に食べた人物とされる水戸黄門(徳川光圀)の誕生日(新暦 1628. 7. 11)から一般社団法人日本ラーメン協会が、ラーメン産業の振興・発展とともに日本独自のラーメン文化を支える目的で制定されました。

●7月27日は「スイカの日」

スイカの消費拡大を目的として、スイカ愛好家たちによって制定されました。日付は夏を代表する果物のスイカの縞模様を綱に見立て、27を「つ(2)な(7)」と読む語呂合わせから決定。原産国が南アフリカのスイカは、日本には室町時代以降に中国から伝わったと言われています。

7月新刊紹介



一般書・実用書

「もっと人生は愉快になる」 五十嵐 貴久
栄養学の普及と栄養士の輩出に一生をささげた栄養学の母・香川綾。「食生活をおろそかにすることは人生を無駄にすること」98歳で天寿を全うするまで現役生活を送った綾の言葉から健康長寿のヒントを読み解く。

「旅行業界ぶっちゃけ話」 梅村 達
宿泊料金の表と裏、危ない集団のツアー、問題ありのドライバー、売れっ子添乗員の女の戦い、ヤバい修学旅行…。50歳で派遣添乗員になった著者が綴るツアー旅行のリアル。

「ブラック郵便局」 宮崎 拓朗
市民のために働いていた郵便局員たちとその家族が、疲弊しきっている。異常すぎるノルマ、手段を選ばない勧誘、そして政治との癒着…。関係者1000人以上の「叫び」を基に歪んだ巨大組織の実態にせまるノンフィクション。

絵本・紙芝居

「七色の手紙」 
「ひつじシステム」 ●紙芝居
「だるまさんあっぷっぷ！」  「へびとのやくそく」 
「まるごとちきゅうレストラン」
「いきものはどうやってねるの？」

小説

「嵐をこえて会いに行く」 彩瀬 まる
古い友人。遠くの恋人。業界を去った恩人。すれ違う家族。途切れかけたつながりをどうしたら取り戻せるのか。大切な誰かの存在に気づかせてくれる5つの物語を収録。

「星の教室」 高田 郁
中学の卒業証書を受け取っていないさやか。義務教育をまともに終えていないという枷が彼女を生き辛くさせていた。しかし20歳の春、夜間中学に入学。仲間たちに支えられて過ごす日々が、さよかの心を解きほぐし…。

「逃亡者は北へ向かう」 柚月 裕子
3月の東北、震災直後に殺人を犯してしまった真柴亮は、一通の手紙を手に北へ向かう途中、家族とはぐれた子供と出会う。一方、刑事の陣内康介は津波で娘を失いながらも真柴を追う…。

児童書

「はりねずみのルーチカ」 
「がれきの町に取り残されたサーシャ」
「もしも明日、ぼくの足がなくなったら」
「未来が楽しみになる宇宙のおしごと図鑑」

○恒例の生まれ月作家の紹介 7月生まれの作家さんには、柳田国男・谷崎潤一郎といった文豪もおりますが、現在活躍している作家さんをピックアップしてみました。
・池澤 夏樹さん ・村山 由佳さん ・原田 マハさん ・吉本 ばななさん ・桜庭 一樹さん
特集コーナーに集めてみましたので、ご覧ください。

その他の新刊紹介は表面の音別町ふれあい図書館 QRコードから…。

図書館からの情報は表面に記載しています。

音別町ふれあい図書館では、学習スペースを3席設置しております。是非、ご活用ください。静寂で快適な空間ですよ。